



三豊市新総合計画の策定がはじまりました

行政改革は手段

合併2年目を迎えた三豊市では、まず最初に行うべき事項として「行政改革」に取り組んでいます。

合併によって職員数や組織・機構が肥大化し、公共施設が重複するなどの課題が発生し、加えて、少子高齢化の進行、人口減少時代の到来など、社会状況が大きな転換期を迎えています。行政改革は本市の行政を根本から見直し、身の丈に合った財政規模や市民に支持された新しい価値観に転換することを目的に取り組んでいるもので、三豊市のあるべき姿を求めてゆくための手段です。

まちづくりの総合設計書

総合計画とは、地方自治法に定められた地方自治の根幹となる計画で、「市町村は、その事務の処理にあたり、総合的、計画的な行政運営を図るための基本構想を定め、これに即して行うべきこと」と定めています。三豊市では、今あるさまざまな課題に

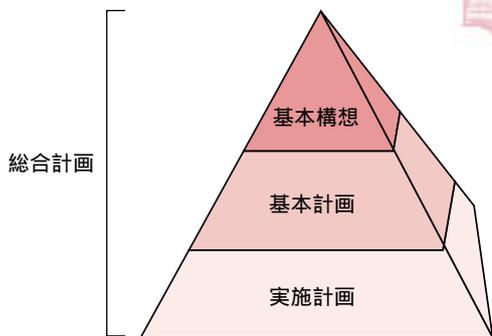
確に対処し、将来の三豊市の向かうべき方向と取り組むべき施策を定めたこの計画を、市の最高位に位置する計画で「まちづくりの総合設計書」として策定します。

三豊市新総合計画

計画の名称は「三豊市新総合計画」で、計画期間は平成21年度から平成30年度までの10年間で、

計画の策定期間は、平成19年度から平成20年度の2年間で、平成20年第3回定例市議会（9月）に基本構想（案）を上程します。そして平成21年度の予算編成から計画を反映させます。

総合計画の構造

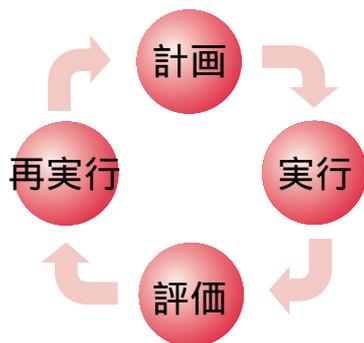


効果を最大限に引き出すために

これまでの反省として、計画づくりが目的になり、計画書が形が僵化してきたことに対する指摘もありました。

そのため、この計画書は、いつまでたっても「古くならない」「古くしない」ということ、そして施策の行政効果を最大限に引き出すため、計画 実行 評価 再実行というサイクルを繰り返しながら運用します。

計画評価サイクル



また、単に目標を示すだけでなく、その目標を達成するための手段・方法についても提示します。

今後、市民の皆さんには、策定の節目ごとに内容をお知らせして、全体像が出た段階でパブリックコメントをいただくことも予定しています。

三豊市のあるべき姿を求めて

いつの時代にあっても、市民の皆さんの声を聞き、時流を読み、進むべき方向を示し、市民の皆さんと手を携えて進むという地方自治の姿は変わりません。特に三豊市は、「地域内分権」という自治のシステムによって三豊市のあるべき姿を求めていくとしています。この計画もその考え方を取り入れて策定します。



総合計画審議会の開始

10月30日、三豊市新総合計画を構成する「基本構想」および「基本計画」の審議を行つたため、「三豊



市総合計画審議会」が開催されました。

この審議会は、行政委員会の委員、公共的団体を代表する者、学識経験を有する者、

公募による者によって組織されています。

10名の委員に委嘱状が交付され、互選により、会長には香川大学大学院地域マネジメント研究科教授の緒方俊則さん、副会長には三豊市自治会連合会の篠丸憲三さんが選出されました。

続いて、市長から会長に「基本構想」と「基本計画」に対する意見を求めるとした諮問が行われ、今後の進め方、アンケート調査結果の報告などの審議が行われました。今後、新総合計画策定に向けて、審議が続けられます。

三豊市総合計画審議会委員

(敬称略、順不同)

区分	団体名等	氏名	備考	区分	団体名等	氏名	備考
1号委員 (行政委員会の委員)	三豊市農業委員会	加藤 徹		3号委員 (学識経験を有する者)	香川大学大学院 地域マネジメント研究科	緒方俊則	会長
	三豊市自治会連合会	篠丸 憲三	副会長		四国学院大学社会学部 カルチュラル・マネジメント科	田尾和俊	
2号委員 (公共的団体等を表す者)	三豊市商工会	佐藤 稔		4号委員 (公募による者)	公 募	秋山英子	
	三豊市社会福祉協議会	前田 昭文			公 募	河田弘太郎	
	三豊市PTA連絡協議会	三野 幸枝			公 募	富田美枝子	

問い合わせ 企画課 73-3010